

# 2020年度 事業報告

2020年4月1日～2021年3月31日

## 1 事業の成果

- 派遣事業では、盲ろう者が移動とコミュニケーションの保障を受けることで、生活に必要なこと以外にも様々な場への積極的な参加が増えてきた。
- 生活訓練事業では、盲ろう者同士及び支援者と共に様々な活動を行うことで、コミュニケーションや社会生活能力が向上し自信につながっている。
- 相談支援事業では、課題を明確にし気持ちを整理することで、心の安定や生活の質の向上に結び付いている。
- 養成講座では、7名の受講生に対しカリキュラムに合わせて講座を開講。7名が修了、次年度登録の申請があった。
- 現任研修では、講義形式だけではなくグループワーク等を行うことで、登録者同士で日頃の活動を振り返り、学びあうことができた。
- 啓発事業では、東近江市手話関係の方々、近江八幡市行政職の方々、草津市や近江八幡市の学校の協力を頂き啓発が行えた。
- 社会参加支援事業では、友の会活動等で地域活動へ参加し、社会の一員として人と出会い交流する中で喜びと自信を得て、少しずつ豊かな社会生活に繋がっている。

## 2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	対象者数	支出額(千円)
盲ろう者通訳・介助派遣事業	盲ろう者通訳・介助者を派遣	4月～	滋賀県内	21	6,102
生活訓練事業	盲ろう者の生活訓練を行う	4月～	友の会事務所 他	21	4,724
盲ろう者相談支援事業	盲ろう者の生活相談を受ける	4月～	滋賀県内	21	1,074
養成講座	盲ろう者通訳・介助者の養成	4月～	滋賀県内	受講生 7	1,070
現任研修	通訳・介助者の研修	4月～	滋賀県内	116	558
盲ろう者啓発事業	県民対象に盲ろう者への理解を深め、仲間を増やす	4月～	滋賀県内	県民	459
社会参加支援事業	地域活動に参加。盲ろう者同士の交流を深める	4月～	滋賀県内	21	316
上記の内、県委託事業の「盲ろう者通訳・介助派遣事業」「生活訓練事業」において、コロナの影響により派遣依頼減少、活動縮小があり、その結果支出が減った。県からの受取り委託金に対し、左記金額を県に返金し活動計算書の経常費用中の「委託金精算」として計上。					3,488

\* 事業全体に新型コロナウイルス感染拡大の大きな影響があった。生活訓練の縮小があった。盲ろう者の社会生活に関わる派遣事業は続けていたものの件数は極端に減った。

# 令和2(2020)年度盲ろう者通訳・介助者派遣実績報告

## 1. 事業利用盲ろう者、通訳・介助登録者実態

地域	盲ろう者数	通訳・介助者数	地域内訳市町( )内は通訳介助登録者数の昨年比
湖西	2	2	高島市(昨年比±0)
大津	0	32	大津市(昨年比-2)
湖南	4	24	草津市・守山市・栗東市・野洲市(昨年比-1)
甲賀	2	13	甲賀市・湖南市(昨年比±0)
湖東	5	9	彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町(昨年比±0)
東近江	4	28	東近江市・近江八幡市・日野町・竜王町(昨年比+2)
湖北	4	8	米原市・長浜市(昨年比±0)
合計	21	116	

通訳・介助者内訳 実働：51人(派遣1回以上)、休止：20人、女性：99人、男性：17人

## 2. 事業実績

県委託事業 通訳・介助内容	件数	時間数
生活訓練	429	586.0
コミュニケーション学習	50	95.0
医療	100	253.0
健康	5	5.0
教育	4	7.5
労働	16	16.5
福祉サービスに係る	9	13.5
聴覚障害者に係る	14	54.5
社会生活	66	173.0
友の会活動	117	262.0
その他のコミュニケーション支援	401	982.0
全国盲ろう者大会	0	0.0
合計	1211	2448.0
自主事業(団体などからの依頼)	62	138.0

## 3. 派遣の動向

- ・総派遣件数は1,273件、2586.0時間。新型コロナウイルス感染拡大の影響で各種行事等の中止や盲ろう者自身が外出を自粛したため、昨年比、1,511件、3071.5時間の減少となった。新型コロナウイルス感染予防対策に関する登録通訳・介助者へのアンケートやガイドラインの作成など、その対応のための事務量が増えた。
- ・音声通訳の派遣場面が広がる中、その技術向上が求められるようになってきた。
- ・毎年楽しみにしている盲ろう者全国大会が新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。
- ・訪問看護・介護・リハビリなど他機関のサービス利用のための通訳・介助者派遣が増えてきた。

## 4. 派遣事業の成果

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で3～6月の生活訓練の休止や外出自粛のために、体力やコミュニケーション力の低下が見られる盲ろう者も居たが、他機関と連携を行い通訳・介助者派遣を行う中で回復することができた。改めて、通訳・介助者派遣で情報やコミュニケーション、外出を支援することの重要性が実感された。

## 5. 課題

- ・会議場面等に対応できる手話・触手話・音声通訳可能な通訳者が慢性的に不足しており養成が必要である。
- ・盲ろう者の高齢化による体力低下とともに、介助のあり方等の検討が必要となっている。
- ・新型コロナウイルス感染予防の観点も含めて、通訳・介助者派遣の際の安全についてどのように担保していくか引き続き検討が必要。

# 令和2(2020)年度盲ろう者生活訓練事業報告

## ○事業の目的

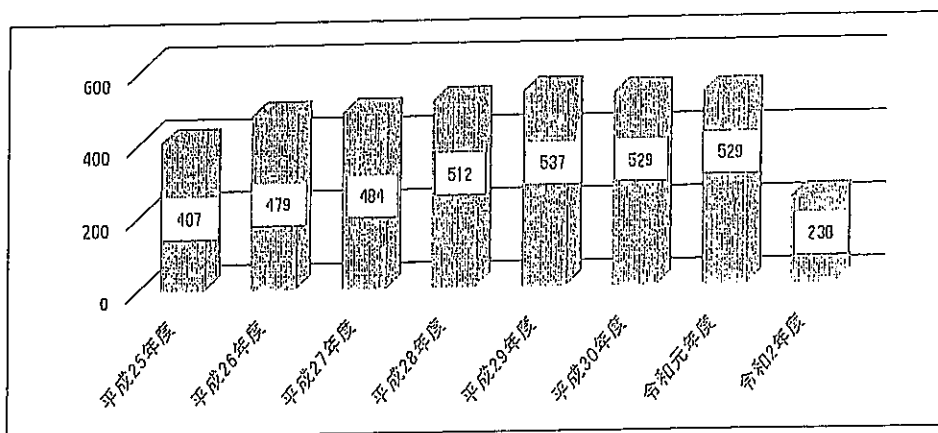
一人では外出やコミュニケーションが不可能な盲ろう者が、社会参加するための手がかりを得る為に必要なコミュニケーション訓練や作業を行う。

### ※月別延べ参加

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
盲ろう	0	0	0	25	22	23	30	28	28	28	26	28	238
介助者	0	0	0	32	29	32	33	39	41	39	35	38	318

## 盲ろう者の参加者人数

平成25年度	407人
平成26年度	479人
平成27年度	484人
平成28年度	512人
平成29年度	537人
平成30年度	529人
令和元年度	529人
令和2年度	238人



### 1. 総括

コロナ感染予防のため2月の最終日から6月まで、生活訓練を活動休止とした。

7月から再開したが、部屋の広さを考え人数制限をした。盲ろう者3名まで、介助者も合わせて6名位。

それと、盲ろう者の参加出来る日はひと月に3回までとした。参加のない日もある。

北部地域、甲賀地域、湖西地域も月1回ですが、活動休止した。状況を見て再開した。

久しぶりに会うので、情報交換や会話を楽しんでおられる様子が見られた。

### 2. 生活訓練

感染予防として、料理、味噌作りは休止している。

工作の日を増やした。点字・指点学習会の日を設けた。

人数制限のため、盲ろうサロンを月、水、金とひと月に3回開いた。

啓発のために盲ろう者の作品とパンフをコミセン等六か所に展示してもらった。

グローから招待され、「盲ろうの人、視覚障害の人と楽しむ ランチと芸術鑑賞会」に参加し、触れ合いや食事もおいしく食べている様子が見られた。

### 3. 今後の課題・提案

盲ろう者の参加を1日3人までと決めたが調整出来できず、広い場所を借りることで対応した。特に点字・指点学習会に参加する人数が多い。

コロナ禍なので、3密にならないように、参加人数や部屋の広さも考える必要がある。盲ろう者同士相談してもらおう予定。

## 令和2(2020)年度 盲ろう者相談支援事業

2020年度の盲ろう者相談は事務局の各担当分野において相談内容が異なり、その相談に応じて各担当者が対応している。

- ① 派遣依頼に関してPC送信・受信などに盲ろう者の意思が尊重され、決定に際して明確性が問われる。
- ② 会議などの出席に際して、資料の説明やその背景を一緒に考えていく対応など。
- ③ 健康管理について a. 医師に盲ろう者の理解を促す。 b. 盲ろう者自身の自己管理できる情報共有を行う。

個々の支援は日々の相談から盲ろう者の体調に注視する事が主に上げられる。

昨年からコロナ感染予防から盲ろう者の自粛生活が大きな支障となったケースもあり盲ろう者の生活が少しでも快適な暮らしに近づけるための関係機関などと連携を図っていく会議が重ねられた。この事は友の会が行う盲ろう者への支援の在り方が関係機関に周知の機会となった。

盲ろう者が人と出会い、会話する、情報を得る事により思考に繋がる。当たり前前の生活ができなくなる盲ろう者にとってどのように人として生きる力が与えられるか。

友の会事業において生活訓練、仲間との出会い、一つ一つが盲ろう者の生活や生きる力にどれほど価値あるものか今回、痛感して報告に変えます。

2020年度 相談件数実績内容

相談内容	本人	関係機関	関係機関との調整	相談事業に付随して
地域生活	82	84	102	205
社会生活	34	30	41	62
コミュニケーション(家族)	17	21	37	52
医療・保健	20	8	15	24
就労	1	0	2	2
教育	0	0	0	0
その他(人権・スポーツ・趣味等)	12	2	8	1
合計	166	145	205	346
総合計	862			

☆地域生活=日常生活の不便性、対人関係、地域のつながり、ろうあ協会活動などに関連する事。

これ等のすべてにコミュニケーションの困難性が伴っている事を含む。

☆社会生活=他団体や関係機関との交流、講座及び講習会等の協力、障害者関係の会議の出席、全国盲ろう者協会や他府県の盲ろう者友の会に関係する事など。

## 令和2(2020)年度盲ろう者通訳・介助者養成講座事業報告

県広報「プラスワン」等で広く県民に受講を呼びかけの協力を頂いた。介護福祉士の資格を持っている方、ガイドヘルパーの方、同行援護の方、手話に興味のある方の受講があった。

講座では、盲ろう者とのコミュニケーションに必要な手話や手書きの学習、移動介助に必要な電車の乗降・エレベーターでの介助の仕方などの学習を行い、また、通訳・介助者の倫理についても学習し、盲ろう者の自己決定を支援することの大切さについて考えた。

### 1. 実施要項

**目的** 盲ろう者の福祉に理解と熱意を有する者に対して、盲ろう者のコミュニケーション手段・移動介助等について、知識と技術の習得を図ることにより、盲ろう者の社会参加と自立を促進し、もって盲ろう者福祉の推進を図る。

**開催日程** 2020年9月29日(火)～2021年2月25日(火)

23回(講義21時間 実技33時間 計54時間)

**開催場所** 滋賀県立聴覚障害者センター、滋賀県立男女共同参画センター  
安土コミュニティセンター 他

**講座内容** 盲ろう者のコミュニケーションについて、盲ろう者の生活と支援、  
移動介助の基本、観察実習 等

**受講人数** 7人 修了者 7人 / 新登録者 7人

コロナ禍の中、開講できるか不安があったが皆さんの協力のもと無事終えることができた。例年なら盲ろう者講師をお呼びするのだが、今年はビデオをとらせていただき、講義の中で使用させていただいた。実際に実技の中で盲ろう者講師とコミュニケーションを図るのだが、今年度は観察実習でのコミュニケーションが最初となり、不安だったのではと考える。

コロナ状況の中、近江鉄道が快く電車の使用を承諾していただき、感謝している。他団体のご協力にも感謝している。

開講式は岡田理事長のビデオでの挨拶。

修了式は岡田理事長の挨拶と修了証書を渡す。

交付式は岡田理事長の挨拶と証を交付。コロナ感染拡大を考慮し念のため県障害福祉課にはご遠慮いただき、福祉課課長に「激励の言葉」を頂き、代読。

### 2. 今後の課題

盲ろう者が居住する地域の、通訳・介助者の増加とコミュニケーションの多様性を持つ通訳・介助者の養成に取り組まなければならない。

## 令和2(2020)年度盲ろう者通訳・介助者資質向上研修 報告

### 【第1回】

日時と場所 2020年8月22日 10:00~12:00 滋賀県立聴覚障害者センター  
2020年8月29日 10:00~12:00 能登川コミュニティセンター  
講師 魚津 浩美 氏 テーマ 「その人らしい暮らしを支える」  
参加者 2日間 43名

### 【第2回】

日時と場所 2020年10月17日 10:00~12:00 能登川コミュニティセンター  
2020年10月24日 10:00~12:00 コミュニティセンターやす  
講師 山本 廣美 氏 「通訳・介助の技術を高めよう」  
参加者 2日間 38名

### 【第3回】

日時 2020年11月10日 10:00~12:00  
場所 滋賀県立男女共同参画センター  
講師 北原 照代 氏 「健康で活動していくために」  
参加者 16名

### 【第4回】

日時 2021年2月20日 10:00~12:00  
場所 守山駅前コミュニティホール 第1ホール  
講師 中西 俊喜 氏 「日々の支援の中で思うこと」  
参加者 37名

### 【第5回】

日時 2021年3月7日 10:00~12:00  
場所 近江八幡市文化会館 小ホール  
講師 事務局 「事例検討・意見交換会」  
参加者 30名

コロナ禍の中、借りる部屋の関係上、2回に分け、講師の方には同じ内容で研修を行っていただいた。登録者の方々にも3密を避ける、手指消毒、マスク・フェイスシールド、机椅子、物品の消毒などの協力を頂き5回の研修を無事に終えた。登録研修は1年に2回以上の参加を必須としているが、今年度はできない状況となった。

## 令和2(2020)年度盲ろう者啓発事業報告

県民を対象に盲ろう者の存在を知ってもらい、障害の特性や困りごとなどを理解してもらうために、啓発活動を行う予定だったがコロナウイルス感染拡大防止のため中止。盲ろう者、またその家族に対しても、しが盲ろう者友の会の存在と滋賀県盲ろう者支援センターの制度の啓発活動も残念ながら取り組むことができなかった。

教育機関、行政機関等の依頼により人権学習や研修で啓発を行った。盲ろう者の話を聞いていただいたが、盲ろう者との直接コミュニケーションは中止した。盲ろう者の日常生活の困難や工夫、コロナ禍の生活の不安等も知ってもらうことができた。

滋賀県と近江八幡市の学校支援メニューは中止となった。

### 1. 実施事項

2020年11月12日(木) 草津市 光泉中学校 岡田昌也

東近江市手話入門講座 岡本長忠

2020年11月18日(水) 近江八幡市新人職員研修 岡本長忠

2020年11月30日(月) 近江兄弟社高校 岡田昌也 岡本克司

2021年 1月12日(火)・13日(水) 八幡商業高校 岡本長忠

### 2. 成果

中学校、高等学校への訪問時には手のひら書き、触手話の体験は控えていただいた。

行政関係はコロナ対策をしっかりと行い、コミュニケーション体験を行った。

盲ろうの障害があっても、自分で出来ることや余暇を楽しむ術を持っていることなど周知することができた。

### 3. 課題

行事関係が中止となり、イベント参加時の啓発ができなかった。盲ろうは触れないとコミュニケーションが取れないため、3密の一つである密接が避けられない。感染対策には注意しているが、心配な要素でもある。ビデオで見ってもらうという方法も考えなければならない。

2020(R2)年度 活動計算書  
 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで  
 特定非営利活動法人しが盲ろう者友の会

(単位:円)

科目	金額		備 考(概略説明)
<b>I 経常収益</b>			
1. 受取会費			正会員 162名、賛助会員 16名
正準会員受取会費	348,000	348,000	
2. 受取寄付金			寄附¥273,060-, 毎募金¥81,080-
受取寄付金	354,940	354,940	
施設等受入評価益			
3. 受取助成金等			滋賀県委託事業
受取助成金	25,084	25,084	東近江市他通訳介助者派遣
4. 事業収益			銀行預金利息
社会参加促進事業	17,474,000		作品販売、催事参加収入他
市町通訳・介助派遣協力	507,500	17,981,500	
5. その他収益			
受取利息他	76		
雑収益、収入	97,635	97,711	
預り金(源泉)	34,754		
経常収益計	18,841,989	18,841,989	
<b>II 経常費用</b>			
1. 事業費			滋賀県委託事業費
(1) 委託事業費			
① 人件費			滋賀県委託事業費(経費)
派遣報償費、事務費	9,692,792		
保険・福利費	153,440		
講師料	395,415		
預り金(源泉)	34,754		
人件費計	10,276,401		
② その他経費			
消耗品費	919,628		
車両費	194,665		
旅費交通費	43,580		
水道光熱費	190,121		
通信運搬費	268,645		
リース料	33,792		
賃借料	1,457,060		
手数料	69,160		
印刷製本費	142,496		
通訳料(点字)	40,000		
備品購入費	349,829		
委託金精算	3,488,623		
その他経費計	7,197,599		
委託事業費計	17,474,000		
(2) 社会参加支援事業費			市町通訳・介助派遣費
① 人件費			
市町通訳・介助派遣・交通費	316,390		
交通費	0		
人件費計	316,390		
② その他経費			
その他経費計	0		
社会参加支援事業費計	316,390		
事業費計		17,790,390	友の会運営管理費
2. 管理費			会議等交通費
消耗品費	48,454		
リース料	8,448		
通信運搬費	14,139		
水道光熱費	47,531		
通訳料(点字)	10,000		
手数料	46,863		
印刷製本費	42,843		
諸会費	24,600		
賃借料	2,110		
減価償却費	464,511		
その他の経費	275,277		
管理費計		984,776	
経常費用計		18,775,166	
当期経常増減額		66,823	
<b>III 経常外収益</b>			
過年度損益修正益			0
経常外収益計			0
<b>IV 経常外費用</b>			
過年度損益修正損			0
経常外費用計			66,823
税引前当期正味財産増減額			0
法人税、住民税及び事業税			66,823
当期正味財産増減額			14,302,349
前期繰越正味財産額			14,369,172
次期繰越正味財産額			14,369,172



## 2020年度 会計貸借対照表

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

科 目	金額 (単位:円)		
	小計	中計	合計
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現金 現金手許有高	0		
普通預金(郵便局)振替口座	3,141,563		
普通預金(郵便局)友の会	2,025,105		
普通預金(郵便局)ヘレン	3,222,208		
普通預金(滋賀BK八幡駅前)	6,678,352		
定期預金(郵便局 積立)	470,000		
未収金	118,000		
流動資産合計		15,655,228	
<b>2 固定資産</b>			
点字プリンター(H19.1)	1		
草刈り機(H19.4)	1		
耕運機(H19.4)	1		
エアコン(H19.10)	1		
エアコン(H19.10)	1		
車両(H23.10)	1		
車両(H28.12)	1		
ワイヤレススピーカー	47,250		
土地	5,000,000		
固定資産合計		5,047,257	
資産合計			20,702,485
<b>II 負債の部</b>			
<b>流動負債</b>			
事業費未払い金	6,333,313		
預かり金	0		
負債の部合計		6,333,313	
<b>III 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産	14,302,349		
当期正味財産増減額	66,823		
正味財産合計		14,369,172	
負債および正味財産合計			20,702,485

# 2020年度 会計財産目録

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

科 目	金額 (単位:円)		
	小計	中計	合計
I 資産の部			
1 流動資産			
現金 現金手許有高	0		
普通預金(郵便局)振替口座	3,141,563		
普通預金(郵便局)友の会	2,025,105		
普通預金(郵便局)ヘレン	3,222,208		
普通預金(滋賀BK八幡駅前)	6,678,352		
定期預金(郵便局 積立)	470,000		
未収金	118,000		
流動資産合計		15,655,228	
2 固定資産			
点字プリンター(H19.1)	1		
草刈り機(H19.4)	1		
耕運機(H19.4)	1		
エアコン(H19.10)	1		
エアコン(H19.10)	1		
車両(H23.10)	1		
車両(H28.12)	1		
ワイヤレススピーカー	47,250		
土地	5,000,000		
固定資産合計		5,047,257	
資産合計			20,702,485
II 負債の部			
流動負債			
事業費未払い金	6,333,313		
預かり金	0		
負債の部合計		6,333,313	
正味財産合計			14,369,172